

Title	百貨店生き残りの本業探査の研究
Sub Title	
Author	中村太一郎(Nakamura, Taichirou) 太田, 康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1620号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1620

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	太田 研究会	学籍番号	89928701	氏名	中村太一郎
(論文題名)					
百貨店生き残りの本業探查の研究					
<p>(【論文要旨】</p> <p>バブル崩壊後の景気低迷長期化による百貨店売上 40 数ヶ月前年比マイナスや価格破壊競争激化の他の小売業態への顧客の大量流出、そして東急百貨店の廃業、そごうの経営不振による事実上倒産に代表される昨今の大手百貨店各社の相次ぐ経営危機などまさに百貨店は業態そのものの存続自体が危ぶまれている現状である。地方百貨店から企業派遣で KBS に来ている私にとってこういった状況の中で百貨店業態危機脱却を題材にした研究論文に取り組む事は、自社のため、更には業態のためになると至極当然のことと思った。そして更に財務のゼミに属してこういった題材に取り組むのであれば当然財務の項目を取り上げ財務面からの建て直しを模索する研究を行なうのが当然と思われるが本当にそうであろうか。私は昨今のあまりに急速に勢いがなくなっていく百貨店業態の状況と元来好立地高集客店頭物販事業つまり営業活動事業のウエイトが非常に高く、直接間接金融市場からの資金調達バランスや他店舗展開、多角化などの効率的投資案件の選択、リスク回避テクニック等の複雑な財務戦略への取組みを必要としなかった百貨店業態にとっての危機脱却のテーマは根本的な百貨店の本業を問いただす原点にこそあるのではないかと。そこに取組まないと財務戦略の研究自体は付け焼き刃にしかすぎず、今後長期的に見た業態の生き残りにはつながらないと思ひあえて財務面でのテーマを研究題材とはしなかった。したがって研究テーマは百貨店業態の長期的生き残りのための役割、意義、ポジショニング詮索であり、百貨店の本業を再定義し目指すべき方向性明確にし、そこから繁栄経営存続のためのキャッシュキャッチの方法提案といった具体性を、ある地方大手百貨店モデルとし、他小売業態との競争環境をシステムダイナミクス分析ツールであるステラをつかいデザイン、シミュレートし結論付けようとした。</p>					